

◎トルリシティ皮下注 アテオス [注]

【重要度】★ 【一般製剤名】デュラグルチド（遺伝子組換え） Dulaglutide（Genetical Recombination） 【分類】糖尿病治療薬 [持続性 GLP-1 受容体作動薬]

【単位】◎0.75mg/本 [0.5mL], ▼1.5mg/本 [0.5mL]

【常用量】1回1本 (0.75mg), 週1回
[患者の状態に応じて1.5mgを週に1回]

【用法】週1回, 同一曜日に皮下注 [腹部・大腿部・上腕部]

【透析患者への投与方法】常用量 (1)

【その他の報告】1か月後に GA 値が有意に低下 (24.4→21.7%) し, 体重に影響なし (清水弘之: Therapeut Res 37: 789-94, 2016)

【保存期 CKD 患者への投与方法】常用量 (1) 腎機能障害患者では, 腎機能正常者に比べて AUC 最大 1.44 倍 (1)

【特徴】改変ヒト GLP-1 と改変ヒト IgG4-Fc 領域が結合した製剤. 改変 GLP-1 は DPP-4 による不活化回避し, カツ免疫原性を回避するようにアミノ酸配列が改変されている・IgG4-Fc と結合させることでクリアランスが低下し, 効果が持続する. IgG4-Fc 部分にも抗体産生や免疫学的細胞傷害性を抑制するための改変が加えられている.

【主な副作用・毒性】悪心, 嘔吐, 便秘, 消化不良, 食欲低下, 下痢, 胃炎, 腹痛, 腹部膨満, 注射部位そう痒感, 頻脈, 浮腫, リバーゼ増加など

【安全性に関する情報】抗デュラグルチド抗体の出現が報告 (1) 消化器症状はほとんどが 2 週間以内に発現している (Guo L, et al: Diabetes Ther 2020 PMID: 32621083) 胃排出速度の遅延作用は初回投与が最も大きい [臨床薬理試験 2.7.2] (1)

【F】37~44% (1)

【tmax】48~72hr (1)

【代謝】イムノグロブリンの代謝過程をたどると推定 [アミノ酸に分解] (1)

【排泄】資料なし (1)

【CL/F】0.0875L/hr [sc] (1)

【t1/2】4.5 日 (1)

【蛋白結合率】結合しない (1)

【Vd/F】11.9L/man [sc] (1) 静注で 5.32L/man で血液中に分布する (1)

【MW】約 63,000

【透析性】透析されないとされる (5)

【相互作用】他の血糖降下剤との併用注意 (1) ワルファリンの tmax 延長 [GER の低下] (1)

【主な臨床報告】ステロイド性高血糖の治療にも有用 [インスリン必要量の減] (Uchinuma H, et al: BMC Endocr Disord 2020 PMID: 32381085)
HbA1c 低下度 1~2% (Ma J, et al: Diabetes Ther 2021 PMID: 33161492)
高齢者でも有効性・安全性に差はなかった (Riddle MC, et al: J Clin Endocrinol Metab 2021 PMID: 33537745)
他の GLP-1RA 注射剤よりも 6 か月後の継続率が高い (Mody R, et al: Diabetes Obes Metab 2021 PMID: 32945083)

【備考】保存は 2~8℃の保冷庫で. 凍結しない. 室温保存では遮光して 30℃以下で 14 日間まで (1)
針は 29G で皮下に約 5.5mm 入り, 針が注入器に戻るまでの時間は 5~10 秒.

【更新日】20240731

※正確な情報を掲載するように努力していますが, その正確性, 完全性, 適切性についていかなる責任も負わず, いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし, それらを利用した結果, 直接または間接的に生じた一切の問題について, 当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は, 日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。